

世界を変えよう基金報告書

団体名：WorldFut TSUKUBA

代表者：社会・国際学群国際総合学類3年 竹本太資

文責：生命環境学群生物資源学類2年 松永佳奈子

参加メンバー：同学生団体所属筑波大学学生9名

活動内容：カンボジア農村部の小学校にてイベント開催および基礎調査

活動期間：2018年3月4日～15日

WorldFut TSUKUBA について

当団体は、「サッカー×社会貢献」を軸に、チャリティーフットサル大会やパブリックビューイング等、サッカーにまつわるイベントを企画・運営し、その収益でカンボジアの農村部を支援しています。

これまでに、サッカーボールの提供や、小学校校舎・サッカーグラウンド建設の支援を行いました。

また、イベントへの参加者の皆様に、「サッカー」という身近なスポーツと「社会貢献」を結び付けることで、手が届きづらいと思われがちな「社会貢献」を身近に感じてもらえる機会を提供しています。

カンボジアの首都プノンペンからバスに揺られること3時間。目立った観光地もなく、のどかな田舎町であるプレイベン州が、私たち WorldFut TSUKUBA の支援先です。プノンペンからの道は整備されていて、クラクションが引切り無しに鳴っていることを除けば、日本での移動環境とあまり違いはありません。ただ、すれ違う車には考えられない量の荷物が乗っていたり、バイクに5人乗りをしていたり、牛が道端を散歩していたりと、風景に関して言うと全てが日本と異なっていました。

私たちは今回の滞在中に、3つの小学校で5つのイベントを開催しました。

最も多く訪れたのは、トルタノン小学校です。先ほど述べた舗装されている道路から1本入った、ボコボコの道を行った所にトルタノン小はあります。ここを訪れるのは、昨年3月のグラウンド完成式以来でした。今回は、2つのイベント（サッカー教室・運動会）を開催し、グラウンド建設に対する評価の指標を作るための基礎調査と、グラウンドを綺麗に使用してもらうためのグラウンド整備を行いました。これらを行った理由の根底にあるのは、「人が集まるグラウンドに」という思いです。なぜなら、子供達だけでなく、小学校近隣の人々がグラウンドで顔を合わせ談笑し、笑い合える場が必要だと考えているからです。そのために、グラウンド建設というハード面だけでなく、ソフト面でも支援をしたいと思い、イベントを企画・運営しました。特に運動会では、グラウンドの周知・可能性の提示・使用法

のノウハウの共有に重きを置き、グラウンドを開放するきっかけを提供しました。また、しっぽ取りゲーム・リレー・大縄跳び等、子供たちにとって馴染みのない競技を行うことで、グラウンドで出来る新たな遊びを伝えることが出来たと考えています。さらに、ゴミ拾い競争によって、ポイ捨てが当たり前となってしまう子供たちの意識を、楽しみながら変えられたと思います。また、サッカー教室は、現在グラウンド建設中であるタミン小学校の子供たち30人を招待し、2校合同で行いました。2校の交流だけでなく、相手を尊重するという点にも重きを置き、場面場面で握手をしてもらいました。リスペクトという部分まで理解してくれたかはわかりませんが、最後の試合では子供たちから自然に握手をしてくれ、とても嬉しかったです。

これまでに述べたトルタノン小に加え、私たちが最初に校舎・グラウンドを建設したスマオン小、来年の夏にグラウンドが完成するタミン小でイベントを開催しましたが、小学校によって全く様子が違いました。スマオン小・中（小中一貫校）で小学生とサッカーをしていた所、女子中学生数名に英語で「サッカーにいられてほしい」と話しかけられ、流石プレイベン州のモデル校だと、とても驚きました。一方で、トルタノン小やタミン小の子供たちは英語どころか、母国語であるクメール語の読み・書きが出来ない子も少なくありません。勉強面だけでなく、生活水準にも違いがあることは、トルタノン小・タミン小付近に住む大人に行った基礎調査の結果からも明らかでした。基礎調査を通して、支援先の現状を把握し、私たちのこれまでの活動を分析すると同時に、これからの支援についての方針を考える情報を集めることが出来ました。

カンボジア農村部での、鶏の鳴き声で目が覚め、水洗トイレ・シャワー・洗濯機はなく、虫もたくさんいる、といった環境下の生活はとても新鮮でした。1日中灼熱の太陽の下で子供たちと遊んだ後の水浴びは最高でした。また、ホームステイ先のお母さんが作ってくれるご飯はとても美味しく、家から見える夕日・星空は圧巻でした。

私たちが支援をしているはずが、私たちのほうが沢山の人ののおかげで笑顔になり、日本で生活していたら絶対に出来ないような経験をすることが出来ました。

今回の滞在に協力していただいた全ての方々に感謝し、これからも活動していきたいと思っています。



